向津具のヤマグチサンショウウオを守ろう

～ヤマグチサンショウウオを通して地域を大切にする心を育てよう～

長門市立向津具小学校

１　はじめに

全校児童が１２名の極小規模校である本校において、絶滅危惧種Ⅱ類の「ヤマグチサンショウウオ」が向津具半島にいるという情報から、ふるさと学習の充実を図りたいという思いで取組を始めることにした。

２　飼育に関する実際の取組

向津具での「ヤマグチサンショウウオ」探しは、前任校でお世話になった新村氏に助けていただいた。もともと絶滅危惧種であることから生息場所を調べていたこともあり、向津具小学校近くの生息場所を見つけた卵や幼体を数体届けてくださったり、児童の現地学習（校外学習）にも同行してくださったりした。

今年度の向津具小学校での取組は、特別支援学級の児童が最初に取り組むことになった。その出会わせ方が一番重要であった。最初に卵をときは、「気持ち悪い」という言葉で、あまり見向きもしなかった。生息地に連れて行っても、「こんな気持ち悪いとこに住んでいるの？嫌だな」と言っていたが、生息地の水の中のどのへんにいるのか道具ですくって見せて目の前に提示したところで目の色が変わった。「自分もすくってみたい」から「学校に連れて帰りたい」となり、最後には、「お世話をするから私が飼いたい」と、気持ちの変容が見られた。

ヤマサンの卵や幼体は、飼育ケースで昇降口に置いているため、全校児童が興味や関心を持っている。朝、ヤマサンの世話をしていると、低学年の児童が、「校長先生、私もお世話したいです。欲しいです」と言いに来るようになってきた。生息地で学校に幼体を連れ帰った児童がそんな様子を見て、「ヤマグチサンショウウオを育てるって簡単じゃないんよ。わかってんのかな。命は簡単には育てられないんだよ」と言っているのが聞こえてくる。子どもたちの心をつかんだところで、ヤマサン先生をお呼びして、「ヤマグチサンショウウオ」について、全校でお話を聞かせていただいた。低学年の児童には難しかったかもしれないが、それでもヤマサン先生に質問をして理解しようと頑張っている様子も見られた。

３　学校だよりによる保護者、地域の方々への周知

６月２１日（水）の全校集会では、向津具の豊かな自然の中で守られてきたヤマグチサンショウウオ（今後、ヤマサンと呼びますね）について、下関市から先生（ヤマサン先生こと新村先生）を呼んでお話をしてもらいました。ヤマサンとはどんな生き物なのか、向津具小の子どもたちのために資料（低学年には少し難しいかな）を作っていただきました。ヤマグチサンショウウオについて知ること、学ぶことで、命について向き合い、向津具の自然を大切にする心を育てることができます。そこに、SDGｓの視点を取り入れてあげると、更に子どもたちの視野も広がります。

ヤマサンって絶滅危惧種なんだよ

向津具小にヤマサンがやってきて、約３か月が経ちました。だいぶ大きくなってきましたが、食欲の違いもあって、個体差が大きいです。今回は、同じ時に孵化した幼体の大きさを紹介します。日頃は、砂利や土の上で生活しているのですが、見やすくするために、透明ケースの上で撮影しています。

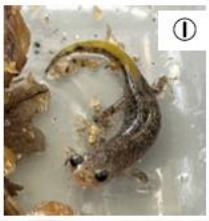
水の中から陸上の世界への成長の過程で、なかなかえさを食べようとしない様子がよく見られます。そんな時は仕方がないので、暑さで死なないようにケースごと涼しくさせながらヤマサンを応援しています。

向津具小のヤマサン物語

向津具小のヤマサン物語③

暑い夏を頑張って越した「ヤマサン」です。飼育ケースの蓋を開けると、この①の写真のヤマサンはケースを開けた人を見上げます。エサがもらえることがわかっているようです。ピンセットでつまんだエサ（冷凍アカムシ）を顔の前に持っていっただけで喰いつきます。

②の写真は、エサを見せた瞬間に飛びついてきた瞬間です。前足が宙に浮いていますが、エサには喰らいついています。③の写真は、浮いたままでは落ち着いて食べられないだろうと、エサを引っ張って前足を着地させたものです。引っ張ってもエサを放しません。ヤマサンには歯はありませんが、あごは強いです。

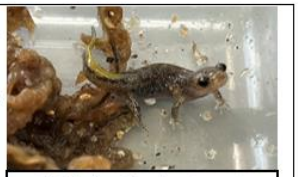


向津具小で現在育っているヤマサンは、全部で１２体です。水中から陸上生活に至るまでに、共喰いや暑さとの戦いで数は減っていますが、たくさん食べて大きくなってほしいと願っています。

最後になりますが、この写真のヤマサンは、金子さんが一生懸命にお世話をしているラムちゃんです。

向津具小のヤマサン物語④

早く涼しくなって、ヤマサンが生活しやすい季節にならないかなと思っています。食欲があるのは、前回の学校だよりで紹介したラムちゃんぐらいです。もしかしたら、エサのアカムシが嫌で、念のために入れているホソワラジムシをこっそり食しているのかもしれませんが、元気さだけは保っています。



人を見上げるようになったヤマサン

話は少し変わりますが、本校にいるヤマサンのことを気にかけてくださる方々が増えてきました。学校に来校されると、「サンショウウオは元気かね？見せてもらえる？」と声をかけてくださいます。うれしいことです。太鼓のご指導に来てくださる鼓波会の岩本先生もヤマサンのファンになってくださいました。児童だけでなく、みなさんに興味・関心をもってもらってうれしいです。

大好物のホソワラジムシ！
ダンゴムシではありません

向津具小のヤマサン物語⑤

向津具小学校のヤマサンは、児童や地域の皆様の愛情に支えられ、元気に育っています。

しかし、エサを食べないヤマサンがいて、その命を守るため、その幼体が卵から孵化した場所へ放しに行ってきました。「生まれた場所で、元気に育ってね。」と願いを込めて放しました。

向津具小の児童が、次に生態の様子を現地に観察に行くのは、１月中旬頃から２月中旬頃になる予定です。

先日、草刈りサミットの日にヤマサンが生息している場所（土地）の持ち主さんである小島さんにお会いしました。ヤマサンの学びを続けることにもご理解をいただき、本当に感謝しています。命を大切にすること、自然を守っていくことなど、向津具小でなければできない学びを、今後も続けていきたいと思います。

今、向津具小に残っているのは、「ラムちゃん」です。
この子は、しっかりたくさん食べて元気です！

今後の予定は、生息地で産まれた卵を向津具小に持ってきて、卵の観察から孵化する様子、そして大きくなる様子（ここまでは水中の観察）、えらが消えて陸上に上がって成長していく様子を、他の学年にも広げて観察していきます。

向津具小のヤマサン物語⑥

12月のある日の出来事です。

「校長先生！大変です！ヤマサンが死んでいます！」と、子どもたちが職員室に駆け込んできました。大切に育てているヤマサンが、校舎の外で死んだ姿で見つかったというのです。「僕、知っています。」と案内をしようとしているのですが、「ヤマサンが死んでいる」という事実が子どもたちに衝撃が走り、大騒ぎになるところでした。寸前で、前日にゲットした情報からの調査を説明しました。

今、向津具小にいるラムちゃんは、元気に飼育ケースにいること、しっぽの形と体の全体が黒っぽかったのでヤマサンではなさそうだということです。すると、「もしかしたらヤマサンでないかもと思ったんだけど、そうすると、あれは、とかげかな？ヤモリかな？校長先生、なんですか？」探究の心が芽吹いた瞬間です。

私自身、子どもたちのこのような反応がとても嬉しくて、にこにこが止まりませんでした。実は、前日の調査のときに、ヤマサンではないことがわかってほっとすると同時に、もしもヤマサンだったら、どこからどうやってここまで来たのかしらなどを思いを巡らせていました。私自身、子どもたちから学ばせてもらった上に、子どもたちに「なぜ？どうして？なに？」を、広げていくきっかけができてとても嬉しかったです。

令和６年度は、ヤマサンから学んでいく学習を、もう少し広めたいと思っています。そんな話を子どもたちとしていると、「校長先生、ヤマサンの棲みかに行くことができますか？」と質問が飛んできました。ヤマサンの棲みかは秘密としていたので、興味・関心がわいていたのだと思います。

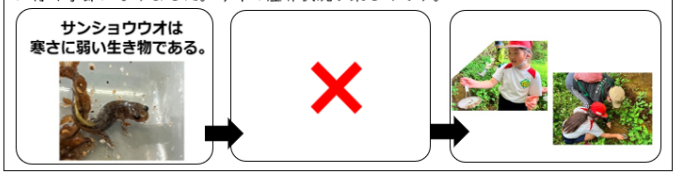
ヤマサンの命を大切にする過程と、探究的な学びがつながっていくように、今後も取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

向津具小のヤマサン物語⑦

寒さが身に染みる季節になっていますが、本校のヤマサンのラムちゃんは元気です。寒さの中でエネルギー消費を抑えているのか、じっと動かず耐え忍んでいるかのようです。しかし、お世話をしている金子さんが毎日エサやりを頑張っているおかげで、ラムちゃんの命は大切に守られています。

「三世代交流どんど焼き集会」の日に、全校児童から地域や保護者の方々に向けた「○×クイズ」が出題されました。金子さんが出題したのは、「サンショウウオは、寒さに弱い生き物である。○か×か」です。会場の皆さんがどれくらいの割合で正解したかを確認できなかったのですが、炎の祭典に続き、地域の方々に紹介することができました。向津具小学校が取り組んでいるヤマグチサンショウウオについての学習が、ふるさとや命についての大切な学習となることを、地域に伝えることができてよかったです。

さあ、そろそろ、自然界でのヤマサンたちは、産卵期に入っている頃です。様子を見に行く季節になりました。今年の産卵状況が楽しみです。



４　成果と課題

「ヤマグチサンショウウオ」を飼育することが大変なことはよく理解しているが、向津具小学校でもヤマサンについての学習を仕組むことにしたのは、向津具の良さはまだまだたくさんあることに気づかせたいということ、自分の興味関心をもったことについて、主体的に調べたり自分の考えたことを発信したりすることが素晴らしいことであること、命の大切さをヤマサンの命を通して実感してほしいという理由がある。

また、学校だよりに「向津具小のヤマサン物語」の記事の掲載することや、秋開催の地域行事に参加して、①向津具太鼓で学校紹介、②ヤマグチサンショウウオの紹介、③エサ代のために校庭の銀杏を売る活動、という３本立てで取り組んだ。３つの目的を果たすと同時に「④銀杏を売るために、校庭をきれいに掃除できたこと」、「⑤本校の児童が地域の方々と新たなコミュニケーションを行うこと」、「⑥地域の方々の来校時のリクエスト（ヤマグチサンショウウオを見せてほしい）」などがあげられる。

課題といえば、地球温暖化等も原因であるが、自然環境の変化に対応できる取組がいかにできるかということ、このことを SDGｓの「15　陸の豊かさも守ろう」に関連付けて活動を仕組んでいけるのではないかと考える。生態について不明なところがたくさんあるヤマグチサンショウウオについて、支援や指導を受けることのできるヤマサン先生（小串ヤマグチサンショウウオ保護保存会）との定期的なつながり、生息地での学習を継続するにあたり、土地の持ち主のご理解が継続して得られることもあげられる。